

全東大の最も先進的、革命的学友は、八大スローガン

の下に日本帝国主义を克服し、自由帝国主義を打倒

全学共闘会設立を主張し、東大斗争を再編強化

ることに社会学部は、話し合い協議の産物として、足立バ
リカード封鎖斗争が不可避であることは幾度と論議
されてきた。そして東大斗争が学園斗争に終し
て、日本階級斗争に対して理のべきスローガンは以
下に表示された八大スローガンであり、唯一のスト
ーガンの下に日本との対決と学学バリケード封鎖を
貫徹することによってこそ、40年代階級斗争の斗
争が果されるのであることを主張して来た。

我々はさらにこの斗争への最終的意志統一のた
うて再度その斗争の位置を再編にしていく必要があ
る。

まず第一に、帝国主義論と過渡期性序論から導か
れる情勢をより具体化するところである。

その内容は第一に二国ソ連体制をもたらし、日米関
係である。懸念独占と軍部に依拠する共和党ニク
ソン政権が、政治においては右の政治、対ソ軍事優
位NATO軍強化バトナムから朝鮮半島中近東へ
の拡大戦争論を唱えると同時に、至済においては、
①至済安定成長②財政支出削減による財政政策③国
際收支対策における輸入制限④信託政策をこころに
はかすまであり、こうした政策の激進化を種別には
E.P.T.解体、統制至済に導くことはいままでの

い。この中で日論はE.S.P.A.C.強化、自主
防衛強化、安保体制強化とともに、鉄鋼巨
額、電子自動車など近年急速に日米輸出を仰
ぎに商品に対する資本強化を要請され
るのである。

内容の第二は、フランスを材料より招来さ
せる国際通貨危機である。この通貨危機は日
本の国際通貨へ甚く通貨の弱体化を要請して
つつ、その主体は通貨シート切上げ懸念にさ
らされていく強い通貨アルクと、逆に切下げ
懸念に懸念されている弱いフランスフランとで
ある。この中にあつてフランスは管理政策の
強化と再版の、五只危機を招来せずにはおな
はないと同時に三三〇円面額一仙の再編をひき
おこさずにはおかない。西独アルシヨアは
は、NATOの軍強化の要請をひきつける一方
ニクソンの資本自由化促進対外直接投資奨励
対日短輪入規制、マルク切上げ要求に警戒の
目互光らせ、鉄鋼価格切上げ、輸入規制、保
護政策との対抗を軸としていかに日米と激化す
る対米競争戦を、日銀の力づくで乗りこ

透かし
成
革命の
日大共闘会

- 一、NATO、安保粉砕がエトノ公算勝利!
- 二、日帝の侵略反革命は70年安保粉砕!
- 三、日帝の中核官僚養成機関、日大崩壊本連、東京帝大
又大学を打倒し人民大学に改編せよ!
- 四、全日学園斗争を70年安保斗争への飛躍の場とせよ!
- 五、ソ連主義原則の下、鉄の全人民的団結は大衆的斗争組織と
武装行動隊を創出強化せよ!
- 六、全学共闘会設立を諸部以統一の環としてエト型全学評として再
編し全学連一地区反戦の反帝統一戦線の強化を克ち取れ!
- 七、一切の改良主義、至済主義、組合主義、日和見主義粉砕!
- 八、全東大人は全学共闘会設立に結集し、
七項目要求を八大スローガンの下斗いに掲げ!

切ろつと日本アムニシスミとを懸念を表明している。日本アムニシスミも本陣面を面紙し厚層同様の位置にあり、このことは、世界第四又列強に於ける日独の対抗とNATO守衛の発動として結果をせんとしているのである。

それ故、そのした動向に規定された日帝の方向と日帝のもつ東大斗争の方針を次に確認せねばならぬ。

昨日の自民党総裁選に於ける佐田首相の此大政の発表は三木の協調路線を大衆追随と批判し、従軍への大衆斗争との全面対決、自主防衛の強化、防衛力と関連しての押縄返還問題をも、大衆斗争の解決をとりあげている。

さらに雅尾又相は、二十日「場合によっては、大学の二つ三つ潰れても仕方がない。本当に日本のために争があるとなれば、断々の一字を振る以外にほりしとの采意を示している。『日本のために』という中に示される東大の位置とは、とりもなおさず、市場再分割における日帝金融支配体制強化に見たつた東京帝国又大学の再編のことであり、それは、資本の脆弱性の故の産業官学協同路線と政府中核官僚養成と排外主義イデオロギの産出を大学がいかに充てるかである。東大一万の学生と七千の職員、附属病院、研究所此のどれ一つとして日帝の動向を左右しないものはない、東大斗争はすでに能力として排外主義の拠点かさも無くばつばすかの二看一の問題として迫られており、そのした認識の下に「現実にはきわめて慎重な態度をとり、大学当局を奨励し、打開の道を見出すよう努わしている雅尾」のである。

七項目をめぐり対立はすでに起こりまできている。七項目中の一項目一項目の諸句が問題なわけではなくその内東自解意欲性が決定的に対立しているのである。七項目貫徹をめぐり争いとして全学バリケード封鎖は今や不可避の問題と存しているのである。それ故問題は、全学バリケード封鎖という事から加上新執行部。日米の対立。新たな展望を幾々は明かにしなければならぬ。

予備折衝は加上新執行部の「話し合い路線」の確立を大衆的に明らかにした。

加上新執行部の唯一の方針は810の案を自己批判や処分の内閣撤回にあるのではなく、「話し合い」ということへの対求められるのである。それは、基本的に、国家権力と東大の対決の中で、最後の四六自主規制路線執行部として、大学の自治非教授会の自治。を研ろつと必死になつて執行部であり、政府アムニシスミの「東大関係」のどのつとと民衆の体制内改良方針にあって、東大幻想共同

体制に吸収されてゆく大衆を、正もかく言ひあつて、という路線によって解決しようとするも、しかし、新執行部がいかにか粉飾しようとも大衆の国主又的再編からいられる方針は提議すべくも無く、予備折衝はますます大衆に新執行部のゴマコ割と大学封鎖の必然性を提議せずにはおこなつたのである。今東大入につまつけられたことは、自らの自衛利権と大学社会の共同利害、そして階級利害と市民社会の共同利害の限りない分裂にあって、その統一の志向性を当局が認めない改政への橋の民主又形或民主又のから大学共同幻想、国家共同幻想へ吸引しつとめるのに対して、この統一への志向の外化を初権力斗争の戦略と、その基礎としての人民大学の提議と、実践の今におけるその体现としてのこの三原則に基く團結形態の獲得である。

かくして我々は、七項目を包摂し、全東大諸階級諸階級を統括するハバスローガンを提出したのである。この戦略に導かれてこそ東大斗争を70年代階級斗争への躍進の場として形成し、日大斗争と連帯し、日大斗争を統合することができるのである。

戦略をもたぬ全ての党派、潮流は動揺し、混乱し、展望を失っている。

民衆民主革命から導かれる東大斗争の体制内改良主義又日帝国主又権力の総認が大衆から開放され、内閣の動揺も余儀なくしている日共はもとより、並べし、前線、フロントにあっては、大衆の急変を分解し右派の抬頭におじろま、22日全学集会、全学バリケード封鎖の位置と展望を明確にしえており、唯一社会学の才が東大斗争の方針を提議し、その下に断固とした民衆との党派斗争から全学バリケード封鎖貫徹を促そうとしているのである。

全東大人はハバスローガンを基本的に認識し、大衆的斗争組織と、武装行列隊を創出し、全人民の武装の一環としての人民大学を担うコミューンラックと全大衆人民の武装へ向つての展望を切り拓いてゆかねばならぬ。

東大學生はもとより七千の職員、研究者すべてを闘いの渦に巻きこめ、全学連一地区反戦との反帝統一戦線を獲得せよ！

東大日大斗争勝利

時計台前総決起集会

22日2時

に結集

せよ